

2026 年 8 月 10 日
株式会社ポピンズ
IR 室

2026 年 12 月期 第 2 四半期 決算説明会 Q&A 要旨 (2026. 8. 7 開催)

※質疑応答の要旨を掲載しております。

Q. 上期の業績について、通期業績予想および配当予想を上方修正するなど、好調な決算となっていますが、その要因について社長はどう捉えていますか。

A. 主に 2 つの要因があると考えております。

1 点目は、成長ドライバーであるファミリーケア事業の好調です。本年 4 月から「東京都ベビーシッター利用支援事業」の採用自治体が東京 23 区全域へ拡大されるなど、「ベビーシッター元年」の到来を背景に、ベビーシッターサービスが引き続き力強く伸び、ナニーサービスでも稼働顧客数や入会数が過去最高となりました。また、シルバーケアサービスにおいても四半期の売上高として過去最高を更新するなど、拡大する需要を確実に取り込むことができました。

2 点目は、事業基盤であるエデュケア事業における収益力の向上です。人的資本経営の中核に据える「社員ファースト」の施策が功を奏し、採用数の増加や離職率の抑制など、着実に成果が現れております。人員体制が整い、施設運営の仕組みもより強固になったことで、実態としての収益力が着実に向上しております。

Q. 業績予想の上方修正後も、下期の営業利益は前年並みの予想となっています。上期と下期の違いとして考慮すべき要素があればご教示ください。

A. 下期につきましては、来期以降の中長期的な成長をより力強く牽引するための先行投資等を織り込んでおります。主な違いは以下の 2 点です。

1 点目は、知的資本経営の推進として、DX や AX (AI を活用したプロセス改革) を加速させるための支出を増強する点です。これらは来期を待たず、今期中より積極的に進めてまいります。

2 点目は、エデュケア事業における学童領域への対応 (人的資本への投資) です。来春の開設分を含め、学童領域の受注環境は非常に良好に推移しております。これに対応するための採用強化や、自治体からの委託料改定等に連動した学童スタッフ向けの処遇改善費用の増加を、下期に見込んでおります。

Q. 業績予想の上方修正の要因は、一過性ではなく、来期も（増益率の水準は別として）今期対比で利益成長は可能と考えてよいでしょうか。

A. エデュケア事業において、前年分の助成金に関する自治体からの精算見込み額の上振れ分も含まれているため、一過性の要素も一部含まれております。しかしながら、グループ全体（連結）の実態といたしましては、来期も今期対比で継続的な利益成長は可能であると考えております。

社会構造の変化に伴うベビーシッター市場の拡大や、「待機児童から待機学童の時代へ」と移行する中での学童分野の成長などにより、当社事業への需要は着実に増加しております。

これらの実需に対し、人的資本経営による働き手の確保や、DX・AX投資を含めた知的資本経営を着実に積み重ね、持続的な事業成長と利益拡大を達成してまいります。

Q. 決算説明会資料スライド12ページの、業績予想修正における営業利益の増額分（+4.8億円）について、事業別の内訳の数字はありますか。特にどの要因が大きく寄与しているのでしょうか。

A. 営業利益の上方修正額の主な要因といたしましては、以下のとおりです。

1点目の「ベビーシッター・ナニーを中心としたファミリーケア事業」と、2点目の「運営強化に伴う助成金収入の上振れ等（エデュケア事業）」が、金額的に概ね同水準での、大きな貢献となっております。

3点目の「消費税処理変更に伴うリスク影響（負担見積もり額が想定対比で下振れたことによるプラス効果）」につきましては、上記2つの要因に対し、半分前後の影響となっております。

以上

【お問い合わせ】 株式会社ポピンズ IR室

✉ ir@poppins.co.jp

☎ 03-6625-2753